



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

英国稲門会について

フ早慶戦、11月に開催される総会です。総会は100人ほどが集まり、パブで行う立食の「いざよい会」とは違い、テーブル席でディナーを楽しみます。総会といっても堅苦しいものではなく、わいわいとお酒も料理もおしゃべりも楽しむ英国稲門会最大のイベントです。

不定期のイベントとして、多国籍料理が楽しめる英国で気軽においしいものを食べる、食べ歩きの会や、現役学生や大学院生などの留学生との親睦会を開催しています。

年齢やバックグラウンドに関係なく盛り上がり得るのは早稲田ならではの、英国稲門会ならではの自負しています。会員を随時募集していますので、英国、ロンドンにお越しの際はぜひご参加ください。

ウェブサイト: <https://sites.google.com/a/wasedainuk.com/wasedainuk/Home>

國重佳奈(2013年文学)

英国の魅力

け入れる準備がされています。他の欧州の都市に比べて人種差別は少なく、われわれ外国人も暮らしやすいように感じられます。

EU離脱後は、ビザ制度が変更されるでしょうが、移民を受け入れ、自国の一部にする英国の文化は、今後も魅力的であり続けるでしょう。

河島航一(1992年法学)

(上)工事開始前の国会議事堂とビッグ・ベン
(下)プレミアリーグ、ニューカッスル対チェルシー戦



英国稲門会は1991年ごろに設立され、これまでの累計会員数は500人に上ります。活動内容は主に、年5回パブで行われ、毎回50人以上が参加する懇親会「いざよい会」、秋のゴル



2017年度年次総会(幹事一同)

引退後、スペインに移住したい英国人の気持ちはよく分かります。長い日照時間、穏やかな気候に、農産物も豊か。英国の長い冬は日の入りが早く、どうしても気分がふさがちになります。

加えて、日本からの駐在員は生活の不便さや違いに戸惑います。チューブと呼ばれる地下鉄は、トンネルの設計が古くて狭いため冷房のない車両が多く、また自宅のボイラーが壊れても、その日のうちに修理されることは少ないのです。それでも、各国から英国、とりわけロンドンを目指す移民は絶えません。

短い夏の盛りだくさんのイベントや、多くの観光地も魅力的ですが、それだけではありません。ロンドンには、世界のどの都市よりも移民を受け入れる準備ができています。金融街には各国の金融機関があり、働く人種、英語の訛りも多様。レストランの店員の多くはビザなしで働けるEUからの移民で、Uberに乗れば南アジアやアフリカ出身のドライバーが多く、多くの小学校は英語を話せない子どもを受

会長メッセージ

て、今後の世界をより良いものにする努力をしていかなければなりません。

英国稲門会も楽しく和気あいあいとした友好の場を作ることだけでなく、広く世界に向けて活躍できる若い人を育てる場としても発展していきたいと思います。本会の設立は1991年ごろ、それまでは会長や幹事の帰国に伴って消滅する集まりでした。帰国の心配のない私が会長となって以来、幹事・会員全員の努力で会は無事継続し、多くの活動をしています。当会のいっそうの活躍をご期待ください。

マークス寿子(1960年政経)

会員からのメッセージ

るバックグラウンドも気にせず楽しく関わることで、自分の半径をちょっぴり広げることができる、そんなムードを感じられるのが英国稲門会の醍醐味だと思っています。

家長 令(2010年法学)

赴任当初、海外でわざわざ日本人と交流することもないだろうと思い、同じく早稲田出身の父親から送られてきた英国稲門会のウェブサイトのURLは完全に無視していました。しかしその後、小さな会社の駐在員として、知り合いが一人もいない土地で生活することの想像以上の孤独を知り、もじもじつつ定期開催のパブ飲み会に参加、それ以降はおかげさまで楽しい(寂しくない)日々を過ごせています。英国稲門会は、年齢や肩書など堅苦しいことは忘れてさまざまな人と気兼ねなく話せる、希少なコミュニティではないかと思っています。

國重佳奈(2013年文学)

以前、英国稲門会がこのコーナーに寄稿したのは2011年でした。それからもう8年。そのときの記事では翌年のロンドンオリンピックについて触れていましたが、今度は東京オリンピックを翌年に控えています。

この8年間に世界のグローバル化はいっそう進んで、欧州も米国もアジアも大いに変化してきました。その変化は必ずしも好ましい方向ではなく、自国中心主義や貧富の格差の拡大、テロの増加など人々の生活を脅かす方向へ傾いているように見えます。

海外で仕事を、勉強を、そして生活をしている私たちは、日本と駐在先の国の双方に目を向け

□ロンドンという街に暮らして13年がたちますが、外国での暮らしにゆとりを与えてくれる存在が、私にとっての英国稲門会です。英国稲門会ほど、上下関係のない組織は珍しいとよくいわれます。早稲田というキーワードのみつながり、職業、地位、性別、年齢、国籍、セクシュアリティなどで、差別、区別、ハラスメントが入り込む余地のない集まりであるうと、幹事が中心になって努力しています。幹事を含め、誰もが平等です。参加する誰もが楽しく、ホッとできる場であることを目標としています。

横尾理一(1990年教育)

EU離脱を目前に控える中、変化の渦中での英国生活は公私共に刺激に満ちていますが、そんな国で稲門会幹事としてイベント企画などに携わっています。学生、駐在員、当地に長く住む人など、実にさまざまな人が「早稲田」という一つのきっかけを頼りに集い、いかな

(左)パブで行われる懇親会「いざよい会」 (右)クリスマス仕様の国立美術館テート・ブリテン

